

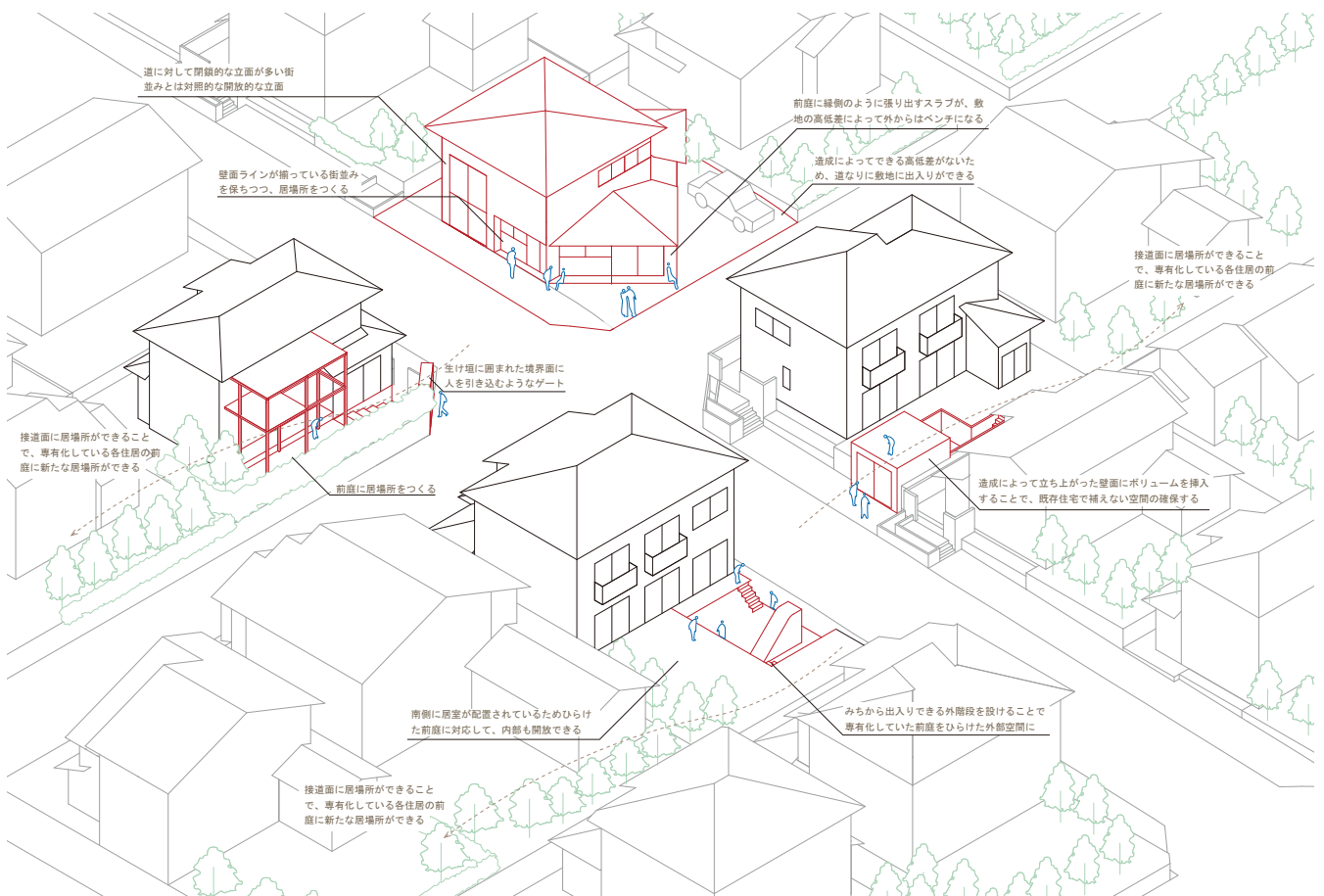
敷地びらきによる多様な住まい方を受け入れる郊外住宅地の再構築 —家びらきを行う住宅と周辺の関係—

中井研究室 向咲重

研究概要： 家びらきに関するデザインがみられる近年の住宅事例を対象に、住宅のひらき方およびその周辺環境の関係を調べることで、家びらきを行う住宅における内外の関係性の一端を明らかにし、その検討結果を踏まえ、今後変化が求められる郊外住宅地を再編する提案を行った。

研究目的： コロナ禍の影響などから、ライフスタイルが大きく変化していくと想定される。また、郊外住宅地は、今後の人口減少に伴い空き家や空地が増えることも想定される。そこで、現在建ち並んでいる専用住宅の特色を生かしつつも、今後求められていくであろう地域とのつながりや共有できる空間の創出を可能とする、郊外ならではの家びらきと、新たな住宅地の在り方を考える必要がある。

研究成果：



[全体アクソメ図]

苦労した点や感想など：

今後変化が求められる郊外住宅地のあり方を考察し、均質で閉鎖的な住宅が建ち並ぶ敷地境界の再編などによる敷地びらきと地域拠点となるひらかれた家による住宅地びらきとなったように思っています。プログラムに頼りがちになっている家びらきが多いなか、新たなネットワークを形成するようなまちのカタチを提案することができたと思っています。